

肺炎球菌感染症について

..... 予防接種を受ける前に読んでください

(1) どんな病気でしょうか

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では、鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

(2) ワクチン接種について

肺炎球菌には、100種類以上の血清型があり、定期接種で使用される沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、そのうち20種類の血清型を対象としたワクチンです。この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約5～6割を占めるといふ研究結果があります。また、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぐためのワクチンですが、すべての肺炎を予防できるわけではありません。

なお、接種を受ける努力義務はなく、本人が希望する場合に限り接種を行います。

【対象者】

- ・ 65歳の人（65歳の誕生日前日～66歳の誕生日前日まで）
- ・ 60歳以上65歳未満の人であって、心臓、じん臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいがある人

※過去に1度でも肺炎球菌ワクチンの接種を受けたことがある人は、原則対象外となります。(ただし、医師が必要と認める際は接種できる場合がありますので、詳しくは接種医師にお尋ねください。)

【接種方法】

沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)を用いて、1回筋肉内に接種

(3) 接種できない人

ジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな人、明らかな発熱のある人（一般的に体温が37度5分以上の場合を指します。）、重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人、また予防接種を行うことが不適当な状態にある人等は接種できません。

(4) 接種に注意が必要な人

免疫不全と診断されている人や、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある人、過去に痙攣をおこしたことがある人、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)の成分や、ジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある人、血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている人は接種に注意が必要です。

(5) ワクチンの副反応

ワクチンを接種後に次のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣(熱性痙攣含む)、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
30%以上	疼痛・圧痛*(59.6%)、筋肉痛(38.2%)、疲労(30.3%)
10%以上	頭痛(21.7%)、関節痛(11.6%)
1%以上	紅斑、腫脹

*ワクチンを接種した部位の症状

(6) 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障がいが残ったりすること。)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師及び保健所保健予防課にご相談ください。

(7) 受けるにあたって

- ① 接種場所(医療機関など)で必ず体温を測定し、診察を受けてから接種します。
 - ② 予診票は接種してもらう医師への大切な情報です。責任をもって記入してください。
 - ③ 接種当日は、激しい運動はさけてください。
当日の入浴はかまいませんが、注射した部位をこすらないようにしましょう。
- * 接種直後から30分間は、体調の変化に注意してください。
体調に異常を感じた場合は、すぐに医療機関に連絡してください。

【問合せ先】

福山市保健所 保健予防課

電話(084)928-1127